愛知県高齢者生活協同組合　２０１９年

たより

10 月

第２１６号

＜発行＞愛知県高齢者生活協同組合・本部事務局

〒４６０－００２１　名古屋市中区平和２－２－３６

電　話　０５２－３３１－４８５３　　FAX　０５２－３３１－２７３５

ホームページ　https://aichikoreikyo.web.fc2.com/

●もくじ●

高齢者生協拡大推進月間スタート！
●ほほえみ祭り・かけはし祭り
●2019協同集会in東海
●協同労働リーダー基礎研修報告
●「労働力」ではなく「生活者」～外国人との共生～
●「トランスジェンダーってなに？」
●あるおじいの沖縄戦④
●「ライフドック講座」のご案内　　他

～高齢者生協拡大推進月間スタート！～

支え合いの社会は、私たちがつくる！

シニアパワー for everybody

全国の高齢者生協では九月一日～一二月三一日までの四カ月間で一斉に組合員拡大強化月間が呼びかけられています。これに呼応して愛知高齢者生協としては一〇月一日を皮切りに高齢者生協拡大推進月間として取り組み始めており、各地域福祉事業所でも、工夫を凝らした行事でアピールを始動しています。

豊田発　ほほえみ祭り

愉快な「鬼のでかパンツ」をみんなで履いて、「鬼のパンツ」の曲に合わせて元気に踊ったら、会場からも思わず楽しい笑い声が上がりました。

九月二一日(土)、豊田市の高齢者生協ケアセンターほみにて、第四回目となる「ほほえみ祭り二〇一九」が盛大に開催されました。当日は好天に恵まれ、九四名というたくさんの参加者が集って、終始和やかに行われました。

楽しい紙芝居を見せてくださった笠原さんや、毎年恒例になってきた、守山あまこだの岩田さん・加藤さん、今年は新たに春日井ぬくもりの今村さんもピアノ伴奏で加わり、大いに盛り上がりました。

笠原さんの紙芝居

そしてほほえみ祭りの楽しみは、もう一つ。職員手作りの料理のおもてなしです。焼き鳥、豚汁、焼きそばなどの定番メニューのほかに、南米大陸のソウルフードがメニューに加わりました。今年は「アンティクーチョ」という肉の串焼き料理で、各種のスパイスに漬け込んだお肉が、おとな向けの薫り高い味わいでした。

ギターの岩田さんとピアノ伴奏の今村さん

当日はスタッフや利用者さんの家族もお手伝いに加わり、みんなで作り上げるお祭りは、回を重ねるごとに家族的なムードが高まっていくようです。

焼きあがったアンティクーチョ等をパック分けしています

事業所を拠点に地域とつながろう！

岡崎発

秋晴れに恵まれた一〇月五日(日)、岡崎の、高齢者生協かけはしにて、待ちに待ったかけはし祭りが開催されました。当日は利用者、ご家族、ご近所の方、近くの事業所の方々など、総勢八五名の方々が参加しました。

★新しい企画が盛りだくさん！

今回は少し趣向を凝らし、デイの毎日の様子をプロジェクターで映して鑑賞し、スクリーンの中も笑顔、観ているみなさんも笑顔、笑顔で楽しんだ後は、ゲーム大会の始まりです。

一等賞をめざして、親子や仲良しの友達同士でおじゃみ積み競争です。誰が一番高く積み上げるかな?あちこちで大きな歓声が上がり、とても盛り上がりました。

「おじゃみ(お手玉）積み」競争で、ハラハラドキドキ

お昼からは、かけはしの自信作、春から利用者さんが中心になって一生懸命仕込んだ梅干しや、漬物、手作りのアクリルたわし、空き缶を利用して植えた観葉植物の販売会です。製作者（利用者さん）が売り子をするので、掛け声にもちょっぴり力が入ります。商品は、あっという間に完売でした。その売り上げで、今度はみんなでお寿司を食べに行こう、と楽しい計画を練っています。

ゲームの表彰や、一等賞にはお米というくじ引き抽選会で、思い切り盛り上がった後は、毎日練習したお祭りマンボ・かけはし音頭を歌って、あっという間に1日が終わりました。集まった来場者は、一等賞の金メダルを得意そうに首にかけ、一等賞のお米を嬉しそうに抱えて帰途につきました。皆さん、笑顔でまた来年をお楽しみに!!

ご家族もお友達もみんなでワイワイ応援します！

手作り梅干しもすごくおいしいよ！みんな買ってって！

空き缶で観葉植物や多肉植物の寄せ植えがかわいくて人気

かんたん料理

肉巻き卵の照り焼き

材料(2人分)

ゆで卵・4個、豚バラスライス・150g、片栗粉・適量、オリーブオイル・適量

【合わせ調味料】 醤油・大さじ1、砂糖・小さじ1、酒・大さじ1、みりん・大さじ1を混ぜ合わせる。

１、ゆで卵に、豚バラを巻き付けて、片栗粉を全体にまんべんなくまぶします。

2、フライパンにオリーブオイルを入れ、肉の巻き終わりを下にして中火で焼き、時々ひっくり返して全体に火を通します。

3、合わせ調味料を鍋に入れ、全体に絡めつけて出来上がりです。　（クックパッド参照）

牛肉でもとてもおいしくできます！
肉に絡む照り焼きたれがごはんによく合います。
ショウガやニンニクで風味付けしてもいいですね！

2019協同集会in東海

ともに生き、ともにはたらく
～未来へつなぐ協同の再発見
私たちに今、できることは～

2019協同集会in東海
三つの目標
①持続可能な地域づくりの実践を共有し、共通因子を探る
②改めて自らの地域を見つめなおし、何ができるか考え、行動に移す
③それぞれの地域で生まれる新しい実践を社会に広げ、未来につなげる

九月二九日(土)、東海エリアとしては三回目となる協同集会が、名古屋市昭和区の名古屋工業大学で開催され、図にあるような三つの目標のもとに一九四名の人が集いました。

独自の市民自治を展開する「やなマルシェ」の前澤このみさん、各務原市八木山地区で市民の主体性を軸に「ささえあいの家」を運営する清水孝子さん、在住外国人との共生における言葉の壁と高齢化問題によりそって事業展開するケアセンターほみの山崎亜土さんのオープニングディスカッションから始まり、午後は六つの分科会に分かれて、さらに内容を掘り下げたパネルディスカッションを行いました。

今、日本は世界でも類のない超少子高齢・人口減少に直面し、人と人とのつながりが希薄になってきたことがより社会の脆弱性を生み、格差と貧困を深刻化、加速化させています。一方、国政レベルでは、本来の課題から目をそらし、本質的な議論をしようという姿勢すら、見えてきません。

オープニングディスカッションで壇上に立つ山崎さん

私たちは、一人では解決できない問題だからこそ、制度や既成概念にとらわれずに個人や団体同士で連携し、それを継続するためのプラットフォームが必要になっているということを、二〇一四年、二〇一七年の二度にわたって開催されてきた協同集会において、確認してきました。そして持続可能な社会、今を生きる次世代の子ども、若者たちが、未来に希望と夢を描けるようにと、「二〇一九協同集会in東海」が呼びかけられました。

まとめのあいさつで壇上に並んだパネリストのみなさん

最後のワーカーズコープ・古村理事長の挨拶では「『協同』は人間の生存戦略である。協同が失われていけば人間の生存も危うくなる。」をひとつのスローガンとして、日常で取り組んでいこう、と強調されました

今月のうた

作詞・北原 白秋
作曲・山田 耕筰・

この道は いつか来た道
ああ そうだよ
あかしやの花が咲いてる

あの丘は いつか見た丘
ああ そうだよ
ほら 白い時計台だよ

この道は いつか来た道
ああ そうだよ
お母さまと馬車で行ったよ

あの雲も いつか見た雲
ああ そうだよ
山査子(さんざし)の枝も垂れてる

協同労働 リーダー基礎研修報告

事務局／加藤　美紀

二〇一九年の協同労働リーダー基礎研修に参加し、八月二八日～二九日の第一回目研修会に行ってきました。

栃木県矢板市は宇都宮市から三〇キロほどの県北部に位置し、りんご園がたくさんあり、研修の道中にはまだ青いりんごがたくさん実った木々をみかけるような所です。

NPO法人ワーカーズコープの矢板地域福祉事業所である「地域活動支援センターながみね」、「りんごの木」、西那須野地域福祉事業所の「のはら園」にて、みんなのおうちや放課後等児童デイサービスでの協同労働、地域共生活動の実践を視察し、グループワークでの話し合いを通して理解を深めました。

地域活動センターは障がいのある方が自立した日常生活や社会生活を営むことができるように、活動を通して地域社会との交流を深めるための場です。「障がいがあっても地域の中で暮らしたい。育てたい。」「障がいのあるわが子に高卒後の居場所を作りたい。」

ライムのような香りのきゅうりメロン。大きめのマスカットくらいの大きさ。

という親御さんたちの切なる想いから、矢板地区で放課後等児童デイや地域活動センターが誕生しました。

地域活動センターながみねでは、活動として、みんなのおうち「Cafe花りんご」で給仕等のお手伝いや、ジャム作り、畑での作物作りをします。作物はきゅうりメロンを作っているのですが、まだ珍しいきゅうりとのことで、私は今回初めて知りました。実は今年の二月に開所したばかりの事業所で、開設に当たっては、建物は昭和の風情たっぷりの古い物件を、組合員や利用者、なんと不動産屋さんの手まで借りて、壁や天井を塗ったり、職員が床材の仕入先を探してリフォームし、現在のナチュラルで清潔な空間に変えたそうです。利用者の絵が飾られ、地域の方の手作り品販売の棚や絵本の本棚が並び、共生の雰囲気が自然に伝わってくる暖かい場所です。カフェとしても飲み物やランチを、お店はもちろん配達でも提供しており、居場所としても事業としても頑張られています。

職員がそれぞれの得意な分野を生かし、みんなのおうち開設にむかって話し合い、行動する過程は輝きにあふれていました。私たちは春日井での小規模多機能型居宅介護事業開設を目標のひとつとしています。私たちにも同じ輝き、同じぬくもりがあると思います。自分に何ができるのか自信はありませんが、ぜひ協同労働の中で目標を実現したいと思います。

新入職員さん、いらっしゃ～い！

あたらしい仲間が増えると職場の空気に変化が起きて、ますますパワーが出てきます。

羽田野 久美子さん　ぬくもり

このたび5月から高齢者生協に入職しました。

ぬくもりに入って、まずとってもあたたかい場所だと感じました。こんな職場で仕事ができることがとても幸せだと思います。これからいろいろあると思いますが初心を忘れずにみなさまと歩んで行きたいと思います。

加藤　浩治さん　ぬくもり

５月より春日井ぬくもりに入職いたしました。

こちらでケアマネとして働かせていただくことになりました。

早くこちらの仕事に慣れて戦力となれるよう頑張りますのでご指導のほどよろしくお願いいたします。

多文化共生セミナー

「労働力」ではなく「生活者」～外国人との共生～

本部／常任理事・山崎　亜土

八月三一日（土）、ウインク愛知にて「多文化共生を巡る地域連携と社会課題への取り組み」をテーマにしたセミナーが開催され、ケアセンターほみの事例報告を行いました。

４月に新入管法が施行され、外国人との共生がマスコミで大きく取り上げられるようになりました。ケアセンターほみも昨年から中日新聞、共同通信社などから取材の依頼を受け、対応してきました。

今回のセミナーは昨年に引き続き愛知県立大学・多文化共生研究所が主催したもので、高齢者生協も加入する地域と協同の研究センターが共催したものです。基調講演では、金城学院大学の朝倉美江教授が外国人住民の増加と日本の移民政策の現状を問題提起しました。朝倉教授は日系ブラジル人に焦点をあて「必要な時だけ雇用され、いつでも雇い止めできるフレキシブルな労働力として位置づけられた」と強調。日本には移民政策が確立されてなく「生活者としての受け入れ体制」が欠如していることから、国による移民法の制定が大きな課題となっていることを提起されました。

事例報告は、①三重県桑名市「ガーデン大山田」代表、平手マリ子さん、②「フードバンク多文化みえ」代表、中田博俊さん、③高齢者生協・山崎、④岐阜大学準教授、中村琢さんが実践報告、調査報告を行いました。

三重県桑名市大山田は外国人の集住地域であり、ガーデン大山田の児童への学習支援のとりくみが広がっています。フードバンク多文化みえはリーマンショック直後、ブラジル人学校に通っていた子どもたちとその家族への余剰食品の有効活用のとりくみです。

岐阜大学の調査活動は東南アジアの教育現場と日本の教育現場の指導の違いがわかりやすく説明されました。特に、母国では優秀だった児童が日本の学校に馴染めずドロップアウトしてしまう事例が増えていることは大変印象に残るものでした。

事例報告後、七〇名の参加者によりグループディスカッションが行われ、外国人・海外ルーツの人々が抱える生活上の課題について話し合われました。

多文化共生の事業所「ケアセンターほみ」が昨年から注目され、様々な団体・個人とつながりを持てるようになったことは大変喜ばしいことです。労働力不足を背景に外国人労働者は今後も増加していくことは間違いありません。朝倉教授が提起されたように、「労働力」ではなく「生活者」として受け入れる体制を国が整備していくことが喫緊の課題であると考えさせられたセミナーでした。

台風１５号、１９号被害への義捐金の呼びかけについて

台風15号で、ワーカーズコープちばの、農園にあった小屋がこの通り全壊状態に･･･。ほかにも大変多くの箇所が被災しました。

去る9月8日～9日未明に首都圏を襲った台風15号により、センター事業団東関東事業本部、ワーカーズコープちばやその他多くのネットワーク組織でも大きな被害を受けました。

その傷もほとんど手つかずのうちに、10月12日～13日に上陸した台風19号による被害については、現段階（10月18日現在）でもなお全容が明らかになってはおりません。

被災された皆様ならびにそのご家族の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

愛知高齢協では組合員、職員の皆さまにも災害義捐金のご協力をお願いしたいと考えており、また別途お知らせして参りますので、その折にはなにとぞよろしくお願い申し上げます。

愛知県高齢者生活協同組合　本部事務局

かかしカフェ通信 ●番外編●

「トランスジェンダーってなに？」

春日井ぬくもりで勉強会

講師の小嶋小百合さん。とても気さくな方です

トランスジェンダー（心と体の性が一致しない人）」「セクシャルマイノリティ（性的少数者）」「ＬＧＢＴ（性的少数者の様々な状態を示す用語の頭文字をとった総称的な名称）」という言葉は、最近いろんなところで目にします。ただ身近で「私はトランスジェンダーです」と表明する人にはなかなかお会いできません。まるで存在を消しているように見えるのはなぜでしょうか？それは、家族など身近な人にも受け入れられなかったり、世間の理解を得られなかったりすることによる偏見が、いまだに根強く残っているからでしょう。

そこで、直接当事者の方のお話を聞いてみようと、九月一〇日、春日井ぬくもりにて勉強会が開かれました。

講師の小嶋小百合さんは、小牧市等でパソコン教室を運営され、多くの生徒さんもいます。

「決して多数派が正常で少数派が異常なのではありません。右利きが多数派で左利きは少数派だけど異常ではないのと同じ。病気でもないので【国際疾病分類改訂版】から今年除外されました。」「統計では、一三人に一人が何らかのＬＧＢＴ。四〇人クラスなら三人はいる比率」と話しておられました。

「分類は細かくあるが、当事者にとっては型にはめられたくない。」「自分で表明するのはいいけど、本人の了解もなく暴露されるのはだめ。」など、人として当たり前の尊厳に関わるお話でもありました。

直接話を聞くことによって、その経験や気持ちが少しでも理解できた瞬間、誰の心の中にもありがちな偏見の芽を自覚すると同時に一瞬で氷解する可能性があります。

人が人に抱く差別や偏見の根源とは何かと振り返ってみると、自分とは違う個性への「知らない事に対する恐れ」の心理であり、それが何かのきっかけで顕在化した場合、ときには当事者の命に関わるつらい事件につながることもありました。

お互いに知ることで、根拠のない「自分は多数派」のような考え方は捨て、誰とでも対等に話すことができる社会に、より近づくと良いと思います。

【OUT IN JAPAN】アウトインジャパンというサイトの、sayuri kojimaで検索してみてください。プロフィールが、パリコレなどで活躍する写真家レスリー・キー氏によるポートレートとともに掲載されています。

勉強会当日の様子

理事会だより

2019年10月14日（月・祝）、理事13人、監事3人出席で、第2回理事会が開催されました。

●8月末の数値

組合員数	2,512名
出資金	60,924千円
供給高	28,487千円
原価	31,456千円
一般管理費	3,139千円
剰余	▲6,108千円

8月は夏季一時金を支給したため、供給高に対して、原価が大きく上回りました。

●実地指導及び立ち入り検査について

高齢者生協サービス付き高齢者住宅えのきの家の立ち入り検査において、現状のままでの位置づけに該当しなくなっている旨の指摘を受け、協議中であると報告されました。老人福祉法の平成27年改訂によるものということです。

●春日井市の小規模多機能型居宅介護事業の新設、申請、土地、建築設計、建築工事について、具体的な見積検討に入っていること、資金繰りについて討議が行われました。課題点を確認し、申請期日を鑑みながら再度調整をしていきます。

あるおじいの沖縄戦④

世界で最も危険と言われる普天間飛行場、その移設先という大義名分のもとに、埋め立てが進められている大浦湾。しかし、この海域の東部には、非常に軟弱なマヨネーズ状の地盤があることがわかっています。そのため70mから90mという長い砂杭を打ち込む地盤改良を施さねばならず、専門家の試算によればその杭は7万７千本という気の遠くなる数量を要すことから、工期は少なくとも１３年以上はかかる見込み。結局普天間は危険なままです。県民投票は反対が７割を超えました。しかし、建設の意義、工期、資材の調達のめど等、場当たり的に見える政府は民意を無視し続けています。

基地建設はいったい誰のためのものなのでしょうか？

今年6月の辺野古埋め立て現場

初めて見る米兵はあまりにも大きく、ヒーザーミー（山羊）のような眼をしていて恐ろしかった。私たち一家は、普天間に運ばれ、広場でＤＤＴ※を頭からぶっかけられ、野嵩（のだけ）の捕虜収容所に連れて行かれた。そこは焼け残った民家で、三〇人ほど住んでいたが、家族三人になってしまった私たちはどこかのおばあさん二人と共に、三畳部屋に入れられた。母に負ぶわれたままだった冴子のなきがらは収容所の前の道ばたに埋めた。

収容所についた当日は、チョコレートやバター、チーズやガムの入った「ケース」と呼ばれる米軍の野戦用の非常食が配られた。

戦争は人の心を醜くする。収容所となっている民家には、皆をとり仕切るボスが存在した。一人に一個ずつ配られるはずのケースは、なぜか翌日、三個になっていた。三日目におばあさんのうちの一人が死んだ。四日目にもう一人のおばあさんも死んだ。すると、五日目に配られたケースは二個になっていた。

母は、何の病気か知らないが、高熱を出して寝込むようになった。枕元から離れようとしない私を兄が無理やり外に連れ出した。「アンマーはもうじき死ぬ。お前まで死んだら僕は一人ぼっちになる。」といい、二人で一緒に食いもの探しに出かけた。

フーチバー（よもぎ）にチャンチャクナー（春の野げし）、さし草など、山羊が食べるものは何でも摘んで食べた。カエルやバッタ、セミ、トンボやナメクジ、ミミズなど、にわとりが食うものは何でも捕って食べた。たった一本の小指ほどのささ筍を、ほかの人に取られないように朝早くから日の暮れるまで番をしていたこともある。少しでも大きくしてから食べるためである。

フーチバーの汁を絞って母に飲ませると、起きられるようになった。兄がいなければ、私も母も生きてはいなかったであろう。

ある日、同じ家にいたセイユー君とノブコちゃんの三人で鉄条網をくぐって大根を引っこ抜いて食べた。鉄条網のそばには米兵が銃を肩にかけて、行ったり来たりしていた。大人だったら、撃ち殺されていたかもしれない。そこで捕まって野嵩の警察署に連れて行かれた。警官も捕虜から選ばれた者であり警察署も焼け残った民家である。赤い帽子をかぶっていたので「赤帽」と呼ばれた。その警察署の裏庭に座らせられると、赤帽のおじさんが、どこからかイワシの缶詰を持ってきて、私たちに食べさせてくれた。三人とも、「捕まってよかった。」と思った。　（つづく）

※ＤＤＴ…頭皮などについたシラミを退治する粉状の殺虫剤

美ら海（ちゅらうみ）を守れ！

生物多様性の重要ポイントともいわれる大浦湾には、まだ新種の生物がたくさんいます。

日本生体学会は、基地建設がこの豊かな生物群にも壊滅的な打撃を与える、と警鐘を鳴らします。

南方新社の海図鑑「大浦湾の生き物たち」

愛知県高齢者生活協同組合 組合員拡大強化月間 特別企画を開催します

～人生１００年時代を自分らしく生きる～

「ライフドック講座」のご案内

★ライフドックとは・・・体のチェックをする人間ドックに対して、心のチェックをするのがライフドック。１００年人生を理解し、自分を見つめなおし、自分の人生観・仕事観を再確認する機会です。これからの人生を前向きに、自分らしく生きていくためのひとつのきっかけにもなります。

ライフドック講座で
あなたの１００才までのライフシフトを
考えてみませんか？

講師　大塚　典子氏

株式会社東京インタラクティブ代表取締役、「ライフドック」コーチ

日時　：　2019年 11月 10日（日）　13時～17時

場所　：　愛知県高齢者生活協同組合本部
中区平和2-2-36　へいわ会館3階　地域交流室

講義＆ワーク例

【講　義】人生100年時代の現実今起こっていること、これから起こること
【ワーク】人生100年時代が高齢協に与える影響、その課題に向けて、どんな挑戦が必要か
【講　義】人生100年時代を乗り切るために生き方を変えるヒント
【ワーク】私のライフシフト（自分が体験したライフシフト経験の共有）
高齢協の活動で増やせる無形資産はどんなものか
【講　義】ライフドック事例共有
【ワーク】今日の講義からどんな講座がつくれそうか

この講座に関するお問い合わせは

愛知県高齢者生活協同組合本部事務局まで

電話　052-331-4853　FAX　052-331-2735

メール　kiyo-n@aichiko.com　　ホームページ　https://aichikoreikyo.web.fc2.com/index.html